

自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 97

2024 September



- 自由民権150年記念事業
- 立志社創立150年記念企画展
「民権自由の幕開け」
- 夏休み子ども歴史教室レポート
- 資料紹介「吉良家資料」より武市安哉書簡

■リリースエッセイ

高知から「天下の元気を鼓舞」せよ！

本年一〇月、高知にて「第五回 全国自由民権研究顕彰連絡協議会大会」（略称 全国みんけん連、二〇一九年一〇月に第一回大会）を、「自由民権一五〇年」を迎えられている高知市立自由民権記念館など高知の多くの皆様と共に開催する運びとなった。

全国みんけん連は、民権運動の研究顕彰等の団体・機関・個人が「自由」に、ゆるやかに、それぞれの立場を尊重して連絡や協議等を行い、かつ親睦を図る（同会「規則」）、唯一の全国組織として、大会・研究発表会で民権結社や政党研究での蓄積を重ねてきた。

さて、高知での自由民権の「大会」といえば、一九八七年一月の「自由民権百年第三回全国集会」が懐かしく思い起こされる。記念講演の江村栄一氏は、「現代の民主主義への危機」への「対応」という面より、「もっと深いところにある底流」として、「自立した人間」「個人」が「手をつなぐ運動」が生まれていることに注目された（集会記録『自由は土佐の山間より』三省堂、一九八九年）。一方、実行委顧問の遠山茂樹氏は、「民主主義にたいする危機意識」と同時に、「その奥底」には、「自由民権運動の時代」というものが人びとを引きつけてやまないう、おもしろい時代「内容が豊かな時代」であることがあり、それを「もつと国民の間に広めていく必要がある」（『同』）と指摘された。江村氏の言には、時に皮相的にもなる問題意識を、より研ぎ澄ませよ、という示唆が、遠山氏の言には、民衆史・国民国家論者の民権運動批判を乗り越える、豊潤な研究上の示唆が含まれている。

こうした高知のより良き「遺産」をふまえ、来たる大会は、高知から「天下の元気を鼓舞」（「民権議院設立建白書」のむすび）する、大いなる機会としたい！高知の皆様の一層のご支援、ご協力を切に願うものである。

大正大学名誉教授・特遇教授

全国自由民権研究顕彰連絡協議会代表

福井淳



自由民権150年記念事業

自由民権150年の節目の今年、当館では、企画展やイベント以外にも、より多くのみなさまに自由民権運動に親しんでもらうことを目的としたさまざまな事業を行っています。

連続講座

「講座 板垣退助」 (全5回)

自由民権運動の研究者であり、全18巻にわたる『板垣退助伝記資料集』を編集した公文豪氏を講師に迎え、令和6年6月から開催しています。

本講座は、まさにこの『板垣退助伝記資料集』編集時に新たに掘り起こされた板垣に関する資料や情報を紹介しつつ、板垣の生涯を概観するものです。いずれの回も会場と併せてZoom配信を行っており、参加者数は8月までの全3回でのべ271人となりました。県内外から多くの方に御参加いただいております。



講座は、残すところ9月・10月の2回となりました。第4回(9月7日)のテーマは「隈板内閣の成立と崩壊」、最終回である第5回(10月5日)のテーマは「板垣退助の社会改良・社会政策」。豊富な資料から板垣の生きざまを紹介します。ぜひ御参加ください。



△Zoomでの参加申込はこちら
(<https://x.gd/VYEAx>)

参加者からの声

豊富な資料を突き合わせ、検証し符合することの醍醐味を教えてくださいました。

幕末の意外な人間関係の話を知ることができて、大変有意義に思いました。

命がけで(自由)論議ができるシステムを作った土佐人のDNAを語り継ぐことが大切だと思いました。

植木枝盛墓の看板修繕

自由民権運動における理論的指導者として知られる、植木枝盛。そのお墓は高知市山ノ端の山中に佇んでいます。

令和6年1月、当館友の会がその墓参道を整備したところですが、今回は、お墓の隣に設置されている案内看板を修繕いたしました。設置から40年以上経過し、老朽化が進んでいたこの看板。今回のリニューアルをきっかけに、墓参された方へ植木の業績をより分かりやすくお伝えできるようにしました。



民権史跡案内図(マップ)の改訂

高知市には、自由民権運動に関する数多くの史跡があります。当館では、高知市内に点在するこれら史跡を1枚の案内図(マップ)にまとめ、来館者や観光客に無料配布し、好評をいただいています。

今回は、こちらのマップの改訂版を作成しました。当館や市内観光案内施設等でお配りするとともに、当館ホームページでもデータ配信を行っていきます。このマップをお供に史跡巡りをお楽しみいただき、自由民権運動の時代に思いを馳せていただけたらと思います。



たとえばこんな史跡を紹介しています
●板垣退助邸跡(高知市萩町2丁目)

板垣退助の住居跡。県内外の多数の民権家がこのを訪れ、板垣ら土佐の民権家と交流したといわれています。当館から車で約5分、ほど近い場所にあります。



●一圓正興記念碑(高知市本町5丁目)

立志社の一等発起人で修立社の社長を務めた、初代高知市長。石碑は1949(昭和24)年に建てられたものですが、市庁舎建替(令和元年竣工)時に移転され、現在の場所となっています。

市内小中学校への 交通費支援

自由民権運動について理解を深めてもらうことを目的に、高知市内の小中学校を対象に自由民権記念館を訪問するための交通費を支援する取組を行います。

今回は、お申込みいただいた小学校6校に交通費(バス借り上げ料)を支援することになりました。

自由民権運動に関する貴重な資料を見たり、学芸員による解説を聞いたりするなど、博物館ならではの体験を通して自由民権運動への理解を深めていただければと思います。



ふるさと納税を活用した クラウドファンディング 実施中

高知市では、こうした自由民権150年記念事業の取組を全国へ情報発信するために、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングに挑戦しています。

皆さまからお寄せいただいた御寄付は、立憲社創立150年記念企画展や「講座板垣退助」、植木枝盛墓看板の修繕費、市内小中学校への交通費支援等、民権150年記念事業の費用に充てさせていただきます。

寄付の募集は令和6年9月29日まで、ふるさとチョイスGCFのWebサイト(左記二次元コード及びURL)又は当館二階事務室で受け付けています。みなさまのあたたかい御支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



詳しい内容はこちら▶
URL:<https://www.furusato-tax.jp/gcf/3012>

全国自由民権研究顕彰連絡協議会(全国みんけん連)第5回大会

全国みんけん連は、自由民権運動の研究顕彰を行っている個人・団体同士の連絡機関として、また、親睦を図ることを目的として結成された全国組織です。
本大会は例年東京で開催されていますが、今年は自由民権150年を記念し、高知で開催いたします。
どなたでも参加できますので、ぜひふるって御参加ください。

全国みんけん連第5回大会

「自由民権150年の開幕を土佐から」

日時: 令和6年10月19日(土) 13:00~17:00

会場: 1階 民権ホール

参加費: 無料 ※要申込(9月30日〆切)

内容: 記念講演 高知県立大学教授 ヨース・ジョエル氏

「裁判官、新聞記者、囚人

——『松本新聞』で見る坂崎斌の松本時代とその後」

研究報告 高知県立高知城歴史博物館学芸員 高木翔太氏

「国会開設に関する高知県各社の相違」

当館学芸員・奈良女子大学大学院博士後期課程 汲田美砂氏

「明治7年民撰議院論争を巡って」

活動報告 高知市立自由民権記念館友の会 ほか

共催: 全国自由民権研究顕彰連絡協議会(全国みんけん連)、
高知市立自由民権記念館、高知近代史研究会



△詳しい内容はこちら
(<https://x.gd/HkmmA>)

民権自由の幕開け

【期間】 令和6年9月14日(土)～11月24日(日)
【会場】 2階 特別展示室

自由民権運動とは、早期の国会

開設や憲法制定、人民の権利・自由の保障を訴えた明治初期の政治運動です。その運動の魁とされるのが、明治7(1874)年1月、板垣退助や副島種臣らによる民撰議院設立建白書の提出です。また、同年4月には、のちに自由民権運動の中心地となる高知で立志社が結成されました。令和6(2024)年の今年は、これら自由民権運動の始まりを象徴する出来事から150年の節目にあたります。

当館では、この節目の年を記念し企画展を開催いたします。



立志社跡碑

I 幕末の土佐

嘉永6(1853)年のペリー艦隊浦賀来航に端を発する幕末の動乱は、江戸幕府支配の正統性を大きく揺るがすものでした。緊迫した社会情勢は土佐藩にも無関係ではなく、藩内では吉田東洋を中心とする改革派と旧来の門閥を中心とした保守派、そして下士を中心とした「土佐勤王党」の三勢力に分かれ、互いに反発を強めていました。その中で、上士であるにも関わらず尊王攘夷論を唱え、しきりに他藩士と交流をしていた板垣の藩内での立ち位置は決して安定したものではありませんでした。板垣の転機となったのは慶応4(1868)年に始まった戊辰戦争です。迅衝隊大隊司令兼仕置格として土佐を出立した板垣は、各地で活躍。この戊辰戦争での武功は後々まで板垣へ大きな影響を与え続けました。

II 明治の改革と土佐

明治新政府はその発足当初から版籍奉還や廃藩置県などの改革に着手します。その目的には、幕藩体制下で長く続いてきた身分制の解体がありました。

明治3(1870)年「藩制」によって「士族卒之外別ニ級アルヘカラサル」と「士族」と「卒」以上の細分化が禁止されたことにより、士族の等級制を導入していた高知藩では改革を余儀なくされます。そこで政府への伺いを経て実施されたのが「人民平均の理」に基づく七ヶ条の改革令の布告でした。ここでは身分制度を廃止し、家格によらず有能な人材を抜擢することが表明されており、この理念を評価した他藩にも広がっていくことになります。

明治4(1871)年には改革派諸藩の連携が図られ、会議の場も設け



迅衝隊集合写真(個人蔵・当館寄託)

III 明治六年の政変から民撰議院設立建白へ

られました。会議の結果、諸藩は、改革の推進は「議院」を開設して「一致」を得たうえで行わなければならないと考え、議院開設を要求していくようになりました。



「征韓論之図」(当館蔵)

一般に、明治六年の政変は、大久保利通・木戸孝充・伊藤博文ら海外視察からの帰国組と西郷隆盛・板垣・副島ら留守政府組との征韓論をめぐる対立から生じたものと理解されています。西欧列強視察の経験から、国内の改革を優先し「征韓は延期すべき」と考えた大久保らは閣議決定という「公議」を無視するかたちで自分たち

の主張を通しました。

こうして、征韓論争に敗れ辞職した参議のうち西郷を除く4人によって政府左院に提出されたのが「民撰議院設立建白書」です。建白書の要点は専制政府への批判、納税者に対する参政権の主張、早期民撰議院設立の要求の3点にありました。

IV 立志社創立

民撰議院設立要求が政府に受け入れられなかったことを受け、機が熟していないのを察した板垣は「自分の目が黒いうちに、必ず民撰議院を建てる」とを誓い、明治7年3月に高知へ帰郷します。そこで先に帰郷していた片岡健吉や林有造などと協議し、同志を集め「立志社」を創立することとしました。

同年4月には2つの立志社趣意書が発表されています。1つ目の趣意書は結社の目的を示すもので、2つ目は広く「四民」へ意識改革を呼びかけることを意図したものでした。

当初は士族授産が主な活動となった立志社ですが、創立後まもない5月には初めての演説会を開催します。のちに立志社の機関紙や演説会で活躍する植木枝盛は、この時に板垣の演説を聞いて政治に目覚めたと語っています。



立志社社屋
(高知市立市民図書館蔵)

また、立志社は「立志学舎」という学校を設立。この立志学舎が授産課や運搬課など、士族授産のための組織とならんで早くから設けられていることや、その設立趣意書にみえる「人学問ナクンバ有ル可カラズ、国教育ナクンバ有ル可カラズ」の文言からは「学問」「教育」を重視する立志社の姿勢がうかがえます。

おわりに

150年前、未だ多くの人々にとつて政治参加や権利・自由の保障という考え方が一般的ではなかった日本で、そうした「民権自由論」を広めていくこうした高知の先人たちの長い戦いはこうして幕を開けます。

企画展では、土佐の自由民権運動を牽引していくこととなった板垣退助や片岡健吉の足跡を追いながら、幕末から明治10(1877)年の立志社建白提出までの高知の動きを資料とともに御紹介いたします。

【自由民権150年関連企画】

●パネル展示

入場無料

期間：9月14日(土)～11月24日(日)

会場：1階 自由ギャラリー

立志社創立前後の日本で何が起っていたのか？民撰議院設立建白書の提出を中心に紹介するパネル展示です。ぜひ2階の企画展と併せて御観覧ください。

●ギャラリートーク

申込不要

9月14日(土)、10月5日(土)、11月16日(土)

各日 午前11時／午後4時から30分程度

担当学芸員による展示解説を行います。

※常設展・企画展共通観覧券をお買い求めの上、

2階特別展示室にお越しください。

●自由民権150年記念講演会

『中江兆民の時代』

申込不要

参加無料

日時：10月19日(土) 午前10時～11時30分

会場：1階 民権ホール

講師：平田オリザ氏(劇作家・芸術文化観光専門職大学学長)

『三酔人経綸問答』は、明治の時代に対話の精神を唱えた画期的な啓蒙書でした。社会の分断が進む日本と世界において、いまこそ、本書が読み返されることを願います。『三酔人経綸問答』の書かれた時代背景を探りながら、中江兆民の訴えたかった点を「対話」をキーワードに読み解いていきます。

令和6年度

夏休み子ども歴史教室 レポート

7月31日(水)、今年で27回目となる恒例の「夏休み子ども歴史教室」を高知市教育研究会社会科部会との共催により、自由民権記念館で開催しました。

この催しは、自由民権運動や郷土の歴史を、クイズなどで楽しく学びながら知識を深めてもらおうと始めたものです。当日は、高知市内の小学3年生から中学1年生までの26名が参加しました。

コロナ禍開けの通常開催は今年で2度目となります。子どもたちは元気いっぱいで大いに賑わいました。

運営に御協力いただきました高知市教育研究会社会科部会の先生方、「高知県民謡協会」及び劇団「笛の会」の皆さん、ありがとうございました。



△開会式

社会科部会の先生の司会でスタート。館長の挨拶を聞いて、植木枝盛が分かりやすく説明してくれる映像資料「自由民権って何？」を鑑賞すれば、クイズラリーの準備は完ぺき。



5つのチェックポイントを班ごとに回りながら、クイズに挑戦



第1・第2チェックポイント (民権クイズに挑戦!)

常設展示室をまわりながら、10問の民権クイズに挑戦! 展示資料の中にあるヒントから難しい問題も解き、ラリーマップに民権家スタンプを集めることができました。



第3チェックポイント (民権座で観劇)

劇団「笛の会」による明治時代の「自由民権運動大演説会」を再現したお芝居を鑑賞。劇団員の皆さんの見事な演技で、子ども達は当時の人々の熱い想いを感じることができました。



第4チェックポイント (民権すごろく遊びを体験)

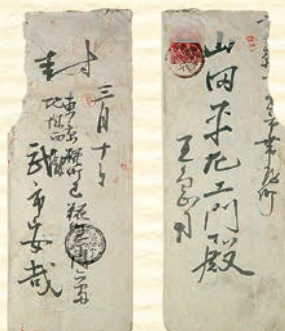
明治時代に作られた「民権すごろく」を体験。くすし字や旧字体にもチャレンジしながら、振り出しの「男女同権」からスタートし上りの「国会」を目指しました。



第5チェックポイント (民権歌謡の合唱)

「高知県民謡協会」の皆さんの三味線の伴奏に合わせて、「よしや節」を歌いました。緊張していた子どもたちも、民謡協会の皆さんの御指導のおかげで、手拍子を取りながら元気よく歌いきりました。歌ったあとは、錦絵パズルで楽しみました。

◆「吉良家資料」より 武市安哉書簡



封筒(裏)

封筒(表)

当館紀要No.27に掲載した「吉良家資料目録」の中から、武市安哉書簡(D・5・16)を取り上げる。

本書簡は、封筒表が「高知県高知市常屋町 山田平左衛門殿」封筒裏が「三月十日 東京麹町区麹町一丁目六番地城西館 武市安哉」、消印は「廿四年三月十日」である。

本文の宛先は「北村兄 都築兄 山田兄 細川兄 吉良兄 竹村兄 阪本兄 弘瀬兄 外諸君」とあり、これは、北村守之助、都築茂理馬、山田平左衛門、細川義昌、吉良順

吉、竹村太郎、阪本(坂本)直寛、弘瀬重正と思われ、この8名が当時の高知の民権派組織海南社の幹部であることが分かる。

彼らが回覧し最終的に吉良の手元に残ったものである。

吉良順吉は、弘岡下ノ村出身、長く県会議員、県会議長を務めた民権派の重鎮で、海南自由党常置委員にもなった。

武市安哉は長岡郡大埔村出身、県会議員、海南自由党常置委員、三大事件建白運動では保安条例の退去命令を拒否し入獄、国会議員、クリスチャンとして浦白人植など波乱万丈の人生を送った。

書簡が記された1891(明治24)年の冬は所謂「土佐派の裏切り」により政界に激震が走ったときである。

第一議会は前年11月29日に開会し、多数を占めていた民党は「政費節減」「民力休養」を掲げ、政府の予算案削減を進めた。これに対し山県内閣は強硬に反論し両者の対立が険悪化する中、2月20日土佐派と呼ばれる議員が政府との妥協にまわる事態となった。

これにより民党の攻勢が挫折、3月2日衆議院が予算案を修正

可決、3月6日貴族院を通過、3月8日第一議会閉会。これより先、2月24日妥協した24名は立憲自由党を脱党、さらに5名を加えて25日に自由倶楽部を結成した。

このような激動の時期の3月10日に海南社から東京に派遣されていた武市から高知の幹部に宛てた書簡であり、当時の緊迫した状況を伝えるものとなっている。

武市が書簡で伝えたかったことは概ね次のようになる。

新組織について「政社組織」か「非政社組織」かの意見の違いがある。高知県以外は選挙区感情の制裁を受けるは免かれざる事情があることが影響している。いずれにせよ主義綱領は必要と決し、植木らが起草委員となった。

緊要問題として条約改正と新組織成立後の運動方針と次の国会に対する方針の3点を挙げる。

一、条約改正問題では「我党の意見ヲ定ムル事」が必要であること。
二、運動方針では直ちに党勢拡張を図るか、立憲自由党の分裂を待つかの論点がある。現状は「各地議員薄弱ニシテ頼み甲斐ナキ者多分有之表面運動をナスノ気力

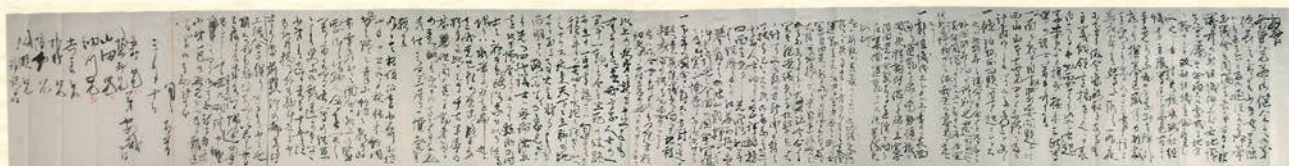
ト余力無之」と嘆き、立憲自由党は大演説会を開いて「脱党議員を攻撃セント」している、そして「高知人士ニ向ツテの悪評誹謗四面を充タシ」といると、困難に直面していることをうかがわせている。

三、国会方針では「本年の国会ニ対スル方針ヲ定メ且ツ貴族院議員ニ向ツテ地租軽減論ヲ議る必要アルコト」と記している。

いずれも「高知人士の一举一動は今日生死の岐路に立チ一步を誤ラハ忽チニシテ積年の苦心を水泡ニ帰セシムル」と危機感を吐露し、武市等の意見としては「先ツ四代議士ハ無論滞京を以テ奮発シテモライ県地の同土ニ於テも苟モ政治家ヲ以テ任る限りハ非常の力を発」することを求め、「以上の緊要件ニ付県人会を開く筈ニ致候間右会の結果ニより更に御報道可申上候」と次報を予告している。

このように「土佐派の裏切り」後の困難な状況を伝え、その中で打開策を探ろうとするものとなっており、土佐の民権運動史にとって重要な資料であるといえよう。

※本欄では、紙幅の関係で内容紹介に止め、背景を含めた詳細な分析は別途報告したい。



自由民権150年関連企画

9月14日(土)～11月24日(日)

立志社創立150年記念企画展

「民権自由の幕開け」

会場：2階特別展示室
※常設展・企画展共通観覧券が必要

・担当学芸員による展示解説

9月14日(土)

10月5日(土)

11月16日(土)

各日 11時～16時(30分程度)

※常設展・企画展共通観覧券をお買い求めの上、
2階特別展示室にお越しください。

・パネル展

会場：1階自由ギャラリー

※入場無料

無料観覧日

9月16日(月・祝)

10月19日(土)

11月3日(日)

9月7日(土) 14:00～16:00

連続講座 板垣退助

第4回「隈板内閣の成立と崩壊」

講師：公文豪氏(自由民権運動研究者)

会場：1階民権ホール

9月16日(月・祝) 10:00～15:00

みんな de マルシェ

会場：1階正面玄関・アトリウム

人気のお店も出店予定

9月16日(月・祝) 14:00～15:30

音で感じる明治時代

会場：1階民権ホール

出演：ママ・レヴィユ・トリオ

協力：(公財)高知県文化財団

9月20日(金) 10:30～12:00

おlove 市特市

会場：1階研修室・アトリウム

高知市立特別支援学校中学部

作製のコーヒー・ハーブ石鹸・

革製品等の販売



10月5日(土) 14:00～16:00

連続講座 板垣退助

第5回「板垣退助の
社会改良・社会政策」

講師：公文豪氏(自由民権運動研究者)

会場：1階民権ホール

10月19日(土) 10:00～11:30

記念講演会

「中江兆民の時代」

講師：平田オリザ氏

(劇作家・芸術文化観光専門職大学学長)

会場：1階民権ホール

10月19日(土) 13:00～ 要申込

全国自由民権研究顕彰

連絡協議会(全国みんなけん連)

第5回大会記念講演

講師：ヨース・ジョエル氏(高知県立大学教授)

会場：1階民権ホール



行事予定 (秋・冬)

9月21日(土) 13:30～16:00

◆第24回「県詞の日」記念講演会

「土佐自由民権運動と
キリスト教について」

講師：黒田若雄氏(高知教会牧師)

会場：1階民権ホール

12月13日(金) 10:00～

◆「兆民忌」

集合場所：高知市筆山登り口(雨天中止)

筆山にある中江家墓所の清掃と墓参り

12月22日(日) 13:30～ 要申込

◆第26回 民権風まつり

「土佐風を作ろう」

会場：1階自由ギャラリー

参加費：500円

1月4日(土) 14:00～

◆第26回 民権風まつり

「土佐風を揚げよう」

会場：鏡川北岸トリム公園(雨天中止)

1月18日(土)～2月24日(月・祝)

■第25回社会科自由研究作品展

会場：1階自由ギャラリー

市内小中学生の社会科に関する研究作品を展示

1月23日(木) 10:00～

◆「無天忌」

集合場所：高知市小高坂市民会館(雨天中止)

山ノ端町にある植木枝盛の墓所の清掃と墓参り

2月1日(土) 13:30～16:30

■高知近代史研究会第120回研究会

「高知県社会運動史研究の
成果と課題」

講師：吉田文茂氏

(高知県社会運動史研究会副会長)

会場：1階研修室

2月13日(木)～15日(土) 要申込

◆「民権150年」記念史跡めぐり

「五日市憲法を見に行こう」

場所：甲府市、町田市、東京都

※詳細は友の会事務局にお問い合わせください。

ワークショップ

午前の部 10:00～12:00

午後の部 14:00～16:00

定員：各回15名

会場：1階研修室

参加費：500円

※午前・午後とも参加者対象の

展示クイズラリーあり

要電話
予約

10月14日(月・祝)

「スクラッチアートのしおりを作ろう!」

11月16日(土)

「民権と綴じノートを作ろう!」

1月18日(土)

「絵馬を作ろう!」

2月15日(土)

「フラワーアレンジメントを作ろう!」

3月15日(土)

「写真立てを作ろう!」

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。 ◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。



自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより Vol.97

発行 2024(令和6)年9月1日 発行人 筒井秀一

発行所 〒781-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306

自由のともしび(Vol.60から)が当館公式サイト(<https://www.i-minken.jp/>)で御覧いただけます。